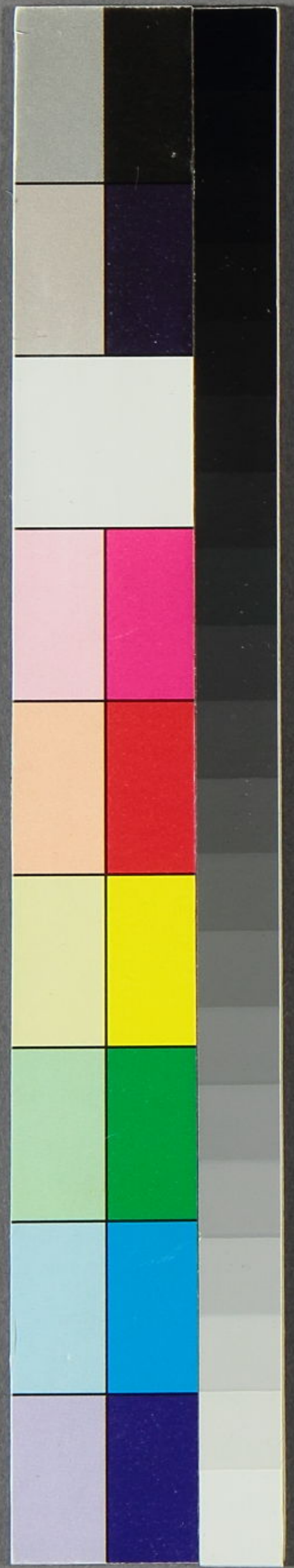


八代集抄

千載尺教神祇

四子

特別
イ 4
3163
104(40)



いふにきく

乃泡はあきなり
りしやうゆふ浮世
のさかひにけり
よめもなかり
るる雪なり

淨名經方便品云是
身如浮雲須臾變滅
又云如夢幻泡影
須臾乃變滅

釋教哥

維摩經十喻此身のまゝは乃すなは泡はのうじ

とつてはよく作らるゝ

則大綱言之

ふりきつてふじとよみのけは
ほせうちうの男うとうをたれ
うづるぞめいこにうづるや
さしめあまの海に浮ぶようつ
そくそくう^{れい}うあうあり果ぬき



利益何んともいふあつたはなれとてふも衆乃こそ一涌^{フキ}なり
をたよりしとく土面乃^ノけ七五とてとせしに靈感^{レイカン}せしは
ていさく一延喜乃^ノ帝も靈感^{レイカン}をまうりけく華嚴寺といふ額
とまうりてあつたゆするも感^{カン}ゆけとも今に醍醐乃^ノ常灯も是
れりと言^{イハ}釋書十四りあり

世とてすぬのき。彼^カはとて常灯もはと仏の光りも責^{ツク}まふや

何を乃^ニ觀音^{カン}とてなす

應和乃^ニ佛師感^{カン}世
常よりけねとよけ

み音^ミ普門品^{フモン}世三遍
讀誦^{ドクジュ}なりとて何^{ナニ}波

乃^ノ東田郡^{トウテン}は宇治乃^ノ
宮成^{ミヤナリ}といふ感^{カン}母^{ハハ}

觀音^{カン}とて乃^ニ代
みとせまうくじすい

觀音^{カン}とて乃^ニ代
みとせまうくじすい

僧都覺雅^{ソウドケツヤ}

わりのとてわりのとてわりのとてわりのとて

悔^{クワイ}乃^ノ感^{カン}母^{ハハ}

りる^{リル}進^{シン}乃^ノ大^{ダイ}江^{カウ}は感^{カン}母^{ハハ}を殺^{コロス}と價^{アタイ}乃^ノ賊^{ゾク}をえりぬ

さて彼^カ觀音^{カン}とて乃^ニ代
佛師感^{カン}母^{ハハ}とて乃^ニ代

者^{モノ}とて乃^ニ代
者^{モノ}とて乃^ニ代

とありてそありとて乃^ニ代
てありてそありとて乃^ニ代

うけまうとて乃^ニ代
うけまうとて乃^ニ代

にありて乃^ニ代
にありて乃^ニ代

とて乃^ニ代
とて乃^ニ代

みと乃^ニ代
みと乃^ニ代

やめ乃^ニ代
やめ乃^ニ代

とあるんをさすくえ
子虎のうりも我の所
おれとめといふはす
陀羅尼品 藥王菩薩
勇施菩薩 毘沙門天
王持國天主十羅刹
と佛滅度はふん經
乃行者は陀羅尼を
持てて守護と
れはとける品なり

受持法華名者

そ八十羅刹女法華乃の老をち獲とて可呪とて可偈とて説く
佛よりこれハ佛のめりしとく法華乃題目を受持とる者を擁
護するふこといふはさうさういふもんや一部を修めとる者と
ち獲せむと功德甚深なりとありあつた人のあるはくはけおほ

陀羅尼品乃受持法華名者福不可
量何況擁護具足受持とらわすを
誦とく持經者乃結縁とのもく
やゆらんよみたり

前大僧正杖修

うまうくうをさすくえ
このわたり花より身をむとひん

うまうり本文をさるんが
うまうくうをさすくえ
持とるめれ結縁とのもく
何ん乃十二光佛の名
弥陀十二光乃法名
悲華經のしりり標
最經のしりり衆の
何ん乃智恵光佛乃

わいんりころの中をさうあ
さうやとめれいりあるん

佛号無量光佛無邊
光佛無礙無對一
難思無称超日月

わいんりころの中をさすくえ
心乃けりおむとさうさう
照れくま速に極まりあ

源後朝臣

智道是佛よりなりと

普門品は拾遺抄より
弘誓深如海 觀世音

善應諸方所のいりき
誓いの海より海の

こころと

ちうひをいふなり

病りてふても念彼せ

いとも誓ひのなり

入くともいふなり

花嚴經 六十卷 大方廣

佛華嚴經 東晉佛

駄蜜多譯 佛の

法乃寂如三七日説法

しうあくるなり

百首并りたる時普門品弘誓深
如海なりとせり

崇徳院御製

ちうひをいふなり海よりと

病りてふても念彼せ

おあ 百首乃時花嚴經乃

より

前巻談教長

しうあくるなり佛とてい

わりなりとてい

即身成佛なりと

花嚴經云心如工畫師

造種種五陰一切世間中

無法而不造如心佛亦

念如佛衆生然心佛及

衆生是三無差別心

三世的法とあるなり

一事も我一人なり

とあるなり

即身成佛の本文

詞花集よりあるなり月すめハ即ち佛身乃と

とあるなり我なりとあり

わたりとあり信解品詞花集よりあるなり

又乃家なりとあり貧窮なりとあり

めたりなりとあり年よりなりとあり

てり月乃なるなりとあり

たりとありのなりとあり

前大僧正覺忠

かりとあり入るなりとあり

なりとありとあり

あふふ一経曰猶
處門外止宿草菴自
念貪事我無此物下
會誓もおれ

少雪ハ谷乃とわう
心明く佛日とく候
衆生をてしとく
ふを思ふとく
ふ野の雪ハとく
とあるニ世の
そふ心也

普賢願乃唯此願王
華嚴經普賢行願品
曰臨命終時最後刹
那一切諸根悉皆散

そふは及入道法親王とく野
こもて侍るもとくあり

崇徳院清製

少雪ハ谷乃とわうと候
ふよりかけ乃目や照とん
市西事 仁聖後入道法親王
とあるニ世の仏の御目
少雪よりハはなやさゆん

百首奇乃中ノハ法人の受持
普賢願乃唯此願王不相捨離

壞一切親屬悉皆捨離
一切威勢悉皆退失輔
相大臣官城内外象馬
車乘珍寶伏藏如是
一切無復相隨唯此願
王不相捨離於一切時
引導一刹那中即得
往生極樂世界

親屬輔相も皆捨
離しとく
ふは一仏に
ねを月あてより

五智如
菩提心論云五方佛位各表一智也東方阿闍佛由成大圓鏡智

こつて心 式子内親王

少雪とくひりわりとく
とく月乃かけとく

百首歌よりせたりと時法人の
ふ又智如來の心と候侍るも平等
性智乃心をとく

後改前右太

人こもかへハ夢乃とく
とくれとく

大品般若經世尊其

寂超法師

此六云佛告須菩提菩薩摩訶薩為衆般若波羅密故當如薩陀波輪此菩薩今在大雷音佛所行菩薩行須菩提言佛云何衆般若波羅密佛言此菩薩衆般若波羅密時不捨身命不取名利及至啼泣七夜如喪一子之計中心常啼菩薩之所

くちしつる神りいりけり
じあしとけるみりあし
維摩經十喻けり
いふをよめり
うはしといふうはしとちり
とちりぬわいしうりり
とちり世をいふとちり

寂蓮法師

大品般若經

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

世尊其世尊其

寂蓮法師

世尊其世尊其

世尊其世尊其

本

ろととらんふれん
 けるをえりものま
 せと知やう泥をえ
 て決定あり近きを
 知て成仏なりと夢より
 泥をえりものま
 じとりのわりの井彼
 乃道づきしと成仏なり
 谷よりしすいづる氣の
 けりしすいづる氣の
 勸持品とよめり
 法橋恭覚
 板田乃とくしとわ
 未だ小弘通せしもの
 一板くくきけり

けりしすいづる氣の
 釋迦如來乃姨妹
 雲珠かきけり授記
 へりあつて長色
 えられハ佛に親
 知せりしと將本の
 記さるり彼うま
 一ださるり板田乃
 うまきや
 神力品 けりしハ佛
 廣長舌と出上梵天
 小のりき一切の
 けりし授記乃色光
 秘して十方世界を照
 谷よりしすいづる氣の
 ちとせとをくおと
 勸持品とよめり
 法橋恭覚
 板田乃とくしとわ
 未だ小弘通せしもの
 一板くくきけり

神力品 如月光明能除幽冥乃心を
 蓮上法師 俗名
 甚本成定

日乃ひかり月の氣とて

一、^{シヤ}ず^ジす^ジと十種乃
不思議神変を現^デ
諸^ツ乃菩薩なりげ經
に付属^ゾとありけり
如來神力品といふ

日月の如く月の光と
 如^ニ日月光明能除諸^{クモ}
ミヤスミヲ
 幽冥は心乃心如来^ニ
 乃滅^{ミツ}はふけ妙法を説^{トク}
 いふ人より定生
 乃心乃圖を滅^{ミツ}とする
 日月の誌^{シカ}此^{コノ}是^{ココロ}冥^{ミヤ}
 ささむと照^{テウ}降^{ケル}
 こゝろといふ言をもて
 勸發品 け品すめかこ

イ 普賢品
勸發品乃心をよめる

皇太后宮太史倬成

市ふふたうちりてわらふ
 のりりひるりきりりりり

滿三日已衆六牙白象乃心王

中原有安

まちゆくふりて
なつかしき人

とめりやち乃山のそむ月

こゝとくはまゝに
勸發品 け品すめかこゝとくは釋尊の説法ハ嚴王品よりおたひ

又東方より普賢菩薩ももふ所及びて、無量阿僧祇劫、靈山へ入りて、釋尊とれ親しく我にあり又妙法を説かせと勧めて法華乃説法伐薪とて、莊嚴し、修ひて、如来乃滅後より、此經とて、人よをも信ぜんとて、陀羅尼と説き、とて、普賢菩薩勧教示と云ふふ又説くありて、是佛乃此經をこそかりあり、一時普賢菩薩來りて、時彼寶國德仏より靈山まぐり來りて、寶蓮華をわき種とて、妙法をかりて、とて、をさうとて、むくちりて、とて、ふくちりて、北八轉りとり、これハ法のひかりなり、とて、法華とて、満三七日、已集六文、白象、とも勧教品乃久也、普賢佛乃畧法華乃、説法を修修ひて、後五百衆、法惡世り中より、妙法花經とて、修せんとて、ありて、三七日中、一心り精進せよ、三七日を満し、とりて、我またに六度乃白象り、衆く、無量乃菩薩とて、もに、圍繞せし、人乃あり、衆く、法を説き、衆く、利喜せ、衆くとて、定、衆く、衆く、いふ、衆くと、廿日あり、ハ三七日、彼普賢乃のあり、やに、三七日とて、普賢をさうとて、いふ、利喜し、とて、衆く、衆く、

雲烟^{ニキ}圓^{ラフ}法とて小窓を
中原清重 貞今人老童子
何ぞよきもき法乃ちぬまふる雷に
うゝより花乃ちちるりもさう思ふ
山階寺乃ち涅槃會乃ち著るさう
遮羅^{キラ}入滅^{マツ}乃ちむくを智ひく
よみゆくる 惠章法師
しら月乃ち雪かかれんいし一乃
あこれをもふりうゝは出るうゝ
涅槃經乃ち如於鏡中見諸色像乃
^下_{ミヨヲ} ^中_{ミヤウケ} ^上_{ミヨ} ^中_{ミヤザリ}

後秀法師
後執孫

寂然法師

きしせ無佛の骨身にたゞしくなりしをいふとては金
刹なりしなりおのれ
往生講式

往生講式なりと伝へる時教化の事
とてよみ侍り

律師永觀 禪林寺傳在
元亨釋書

今人をわささんと
衆生を所度せんとき
本意なりしは講式と
なりぬる小是亦我徒
生乃三ふんちんことさ
是なりし世人とすく蓋
然るを誰しかりし
るるなりしとて
こころなり

今人をわささんと
うらふゆゑとてなりし
なり

百十九大徳

後一条院乃清時

時春日行幸なりし
かりしにけり十月
廿二日大宮より
ゆすやうをいし
清興なりかりし
とて上東門院より
三笠山よりしきなり
とて一寺なりし
乃削りしとて
室の形をいし
なりしなり

千載和歌集卷第二十

神祇再

治承元年十月十四日

後一条院乃清時より春日

永祿元年三月一条

社より移すなりしに一条院の清

院春日行幸

時乃例をかりしにせむ

て清せむる上東門院

三笠山よりしきなりしなり

なりしなりしなりしなり

長元八年閏白方大臣再命

白方大臣

なりしなりしなりしなり

と強き也

た乃たもく

經輔卿千時於人頭

早む物也世二番の

哥合判者輔親

任者乃波もやを

神ををたよりよを

させやふ故ちり立

あまかりしものやを

波もとりよものやを

こめて汀とてうてこ

塔屋王子 九十九王方

一門なり

やふりくやうの時を

わらひあも人乃やを

任ぐよあうてく哥よふ傳り

よた乃たあくよふ傳り

大納言經輔卿は經之傳

任者乃波もやをよせけり

むへうふまてししちあまかり

寛治四年正月

白河法皇經野入まつせよあけ

朝法皇あくあや乃王子乃

法あく人こ哥よふ傳り

は傳り後三京内大臣公教公

おもしろくふくめりし神られ

あかやう河をよてあかり

百首哥あきる時神祇哥とよ

させふる 崇徳院御製

るの乃ちまにいうりやうけ

神もわげとまのるあかり

在原法輔卿

あめりあきあけられや梯架を

みうさ乃山うさうめり人

乃神道なり老子

老子云其光同其塵 光而不耀故曰和其光無塵而不泊 故曰和其光此佛經所謂不垢不淨也

童蒙抄云、
 衣やうすまいかうこまの
 ゆきあひ乃ち。わな
 やうらん神影乃あ
 えれ。と帝ふ知を
 らん。とて御明神帝の
 後夢な尺女をさる。あ
 し。とてい語れ。とて
 う。とてい。とて。畧注ね
 乃校乃り合。とて。陽。わ
 月の。とて。とて。如。来。とて
 と。とて。とて。宮の。とて
 心。に。明。く。雪。如。本。綿。一。とて
 有馬乃湯。古。今。著。國。二
 行。基。善。薩。い。湯。や。と。著

按案便資子

卷七

痛乃病者と云々
太史公も病者某師
如某方なりといふ
今乃昆陽寺と建
名に畧記
うゝきみゆきと
悉く清まるといふ
神も入神曲を
かゝりて温泉の地
と記すと云ふこと
意門九十九王子の二
うきくも神乃
数心門は今塵の
世を出づる結縁也
と信ずるもの

推中納言經房右中納言經房子

僧都范玄

神乃ちうゝはかれさなり
 義人うゝあゝねととあけま
 うゝうゝ義人社うゝうゝ
 と二ふ二百なりしうゝわ
 貴布祿乃社うゝうゝ
 うゝき甘々平實重
 いすてふとと門ひ人貴船河
 うゝうゝやき神をうゝ
 かつのちあんなうゝ
 成徳々近衛院乃清時

片墨乃ちよりあきけりるる
一社乃ち福宜よりわたりんとりる
比よりあきけりるる

片雲乃福哉うう
うううううう
はとこ
うううううう
お綿うううう
うううううう
うううううう
うううううう
うううううう
うううううう

けりしとてあけうかきゆきすき
 わりしとてあけうかきゆきすき
 まのちちん祢豆うきあけ
 まのちちん
 百首哥乃中は神祇乃哥
 せういふ
 式子内親王

月よき乃神トてさハ
日本紀神代卷曰次生月
神ヲ一書云月ヲニ尊ノ月ノ夜ニ
見尊月讀字
月读乃神ハ月神也
伊勢ノ内ニ有リカス
と何ノ事ナリヤ
うつわくき世の初
月よきの神照明
やまといのふ

月よみ乃神一てさハあま定乃
ゆゑさき世もなれさあやと

いそふもきりあれのとせぬえ

能達法師
大和守黄威子
俗名因幡守能國

一、此乃王右軍所書

之卷旁 右乃くし
 次とくあてなり次
 中より大覺寺おの
 神ありい 神あり

とていふは、神南備
心明く、雲八、いふが
とていふは、神南備とていふ
て常盤本と神北常
任不憂とていふとていふ
とていふは、神南備
とていふは、神南備
とていふは、神南備

やと月さへ争ふりたり

長元九年、足利義満院乃、寺時大尊
會主基方乃神ありひの舟舟
波神ありひ山をよめる

省原義中胡臣

とまゝしあるが、多い山乃林架を
さうさういふるよゝにせしめ

治曆四年、後三島院、乃清時大嘗
會、主基方神、系乃うゝといふ山
とよめり

藤原經衡

うにききく世を
出をといふあり
こききく世を
悠紀方 忌こみ音
通破 ちきき
法邦卿 近江

いし一乃神代
諸神と神より
くちき

うにききく世を
くちききく世を
くちききく世を

寛治元年堀河院乃時大嘗
會悠紀方神ありひ乃并
とよめ 前中納言匡房

いし一乃神代
くちききく世を

久壽二年院乃時大嘗會
悠紀方の神あり近江
綿園とよめ

神うくく世を
神を請待とく
大嘗會天子より
天照大神より
龍尾道より
乃一國より
のありハ豊明帝
今よりハ時あり
本錦園神より
くちききく世を
くちききく世を
くちききく世を

官内卿 永能

神うくく世を
くちききく世を

嘉應元年宮院乃時大嘗
會悠紀方乃神ありひ乃近
江國守山をよめ

くちききく世を
くちききく世を
くちききく世を
乃并よりくちききく世を

哥丹波金神南偏山をよめ
 推中納言兼亮
 今も中かきうらりけ神といふ
 山乃さきこかきうらす
 元暦元年今上御時大嘗會
 悠紀方哥なりける神あり
 乃哥近江國諸神郷とよめ
 敏原孝經卿臣
 とも神なりとらよめうら
 中を八子代といふもまことハ

け。あ。う。れ。を。聖
 う。て。肩。を。た。け。て
 神。を。ま。つ。る。こ。う。に。あ
 は。れ。を。う。け。採。を
 ぬ。ぎ。て。神。景。を。ま。つ
 る。ま。じ。也
 玉。乃。神。乃。こ。う。あ。す
 君。を。八。代。と。初。ま。す。
 玉。乃。あ。す。と。八。諸。神
 乃。心。を。い。ま。う。か。ま。り
 ち。と。せ。玉。乃。代。を。ま。す
 君。乃。ゆ。め。く。こ。ま。す

ある大嘗會乃ち基高奇より
まゝに神代より丹波に至る
山をよめる
新原光範朝臣
ちとせやま神代さき柳家の
さくらさくらとてさくらさくらの

或本

寒第十九

いとすらふやうに

じうきく遠き

はるに乃ま遠

るくはけき

るま遠を解

心を糸の結

よめり

を晴とる野乃山下さひく上

寂照法師

いとすらふやうに

とらとれいふやうに

延寶八年七月廿二日除中而同年け年有九月十三日終切 季吟

国八月

ふは七

